

# Q11 食品の検査体制はどうなっているの？



## A



食品中のモニタリング検査を、原子力災害対策本部が定めたガイドライン「検査計画、出荷制限の品目・区域の設定・解除の考え方」（最新の知見を反映して適宜改正）に基づき、各都道府県で検査計画を策定し、実施しています。

検査は国が検査対象自治体、対象品目、対象区域・検査頻度（検出レベル・品目の生産や出荷等の実態に応じて）を設定しており、現在は、青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、千葉県、埼玉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県の**17都県**が検査対象自治体となっています。各都県で実施された検査の結果は、厚生労働省が集約して公表しています。

## 放射性物質の検査方法

### ①ゲルマニウム半導体検出器を用いた核種分析法による検査

食品を細かく切り重量を正確に測って容器に入れ、厚い鉛で覆われた箱のような容器に入れて測定する。この検査では食品中の放射性物質の濃度を核種ごとに正確に測定できる。

### ②NaI（TI）シンチレーションスペクトロメータ等を用いた放射性セシウムスクリーニング法による検査

一般食品を対象として短時間で多数の検査を実施できる。スクリーニングレベル※を基準値の1/2（50Bq/kg）、測定下限値を25Bq/kg以下とし、その結果スクリーニングレベル以下とならず、基準値よりも確実に低いと判断できない場合はゲルマニウム半導体検出器で検査を行い、正確な放射能濃度を測定する。※検査結果が予め科学的に定めたレベルより低い時に基準値以下と判定できるよう、予め定めたレベルのこと。

食品中の  
放射性物質対策

## 食品中の放射性物質に関する検査の手順

精密な検査①と、効率的なスクリーニング検査②を組み合わせることで実施

- ① ゲルマニウム半導体検出器を用いた核種分析法
- ② ・ NaIシンチレーションスペクトロメータ等を用いた放射性セシウムスクリーニング法  
← 短時間で多数の検査を実施するため導入  
・ 非破壊検査法を用いた放射性セシウムスクリーニング法

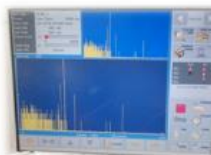
＜測定の流れ＞

細切

秤量

測定

解析



※非破壊検査法では、細切を行わず測定が可能。

出典：環境省「放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料（令和3年度版）」

①野菜類・果実类等

原則として出荷開始前から出荷初期段階で検査を行い、その後必要に応じて定期的に検査を実施する。



②乳

検体採取はクーラーステーションまたは乳業工場単位。検査対象自治体は定期的に検体を採取し、検査する。ただし、自治体が適切な飼養管理が行われていることを確認し、直近3年間の検査がすべて基準値の1/2以下であることなどの要件を満たせばこの限りではない。

③水産物



主要品目、主要漁場において計画的に実施する。養殖物と天然物は区分して実施。検査対象区域は「内水面魚種」「沿岸性魚種（表層、中層、底層、海藻等の生息域を考慮）」「回遊性魚種」に分けて設定する。

④牛肉

対象自治体は農家ごとに3か月に1回程度検査を行う。ただし自治体が適切な飼養管理が行われていることを確認し、直近3年間の検査がすべて基準値の1/2以下などの要件を満たせばこの限りではない。



⑤米

市町村ごとまたは旧市町村ごとに行うことを基本として、出荷前に実施する。検査対象自治体は、過去の放射性セシウム検査の結果等を勘案し、検査対象市町村、検査点数等の決定を行い、一般検査、または全量全袋検査を行う。



福島県では2020年度産米から、旧避難指示区域を除き、全袋検査から一般のモニタリング検査に移行しています。

⑥きのこ・山菜等

原則として栽培物は出荷開始前に、野生のものは収穫の段階で実施する。

⑦野生鳥獣の肉類

野生鳥獣の捕獲が行われている市町村を対象とし、捕獲の段階または食肉処理施設で検体を採取する。

検査結果の調べ方

農林水産省HP「食品中の放射性物質について知りたい方へ（消費者向け情報）」

- ・食品中の放射性物質の最近の検出状況
- 食品中の放射性物質の検査結果（年度別、品目別、都県別の解析結果）

※福島県の農林水産物の品目別検査結果については、福島県HP「ふくしま復興情報ポータルサイト」

- ・「食品」に関する安全・安心の確保 - 農林水産物の緊急時モニタリング検査結果【概要】

放射能濃度の測定結果の解析

例 相馬市中学校の給食の米飯 2018年5月1日

- ・右のグラフからセシウム134、セシウム137はどちらも不検出であることが分かります。
- ・それに対してカリウム40はピークが大きくなっています。587.3Bq/kg前後
- ・このように食品中の放射性物質は、セシウムに比べてカリウムがずっと多くなっています。

